

オンラインも活用し、感染予防と学校活動を両立する取組み

令和2年3月にコロナ感染拡大防止を目的とした学校休業の要請が国から一斉に発出されてから、間もなく2年が過ぎようとしています。この間、学校現場は感染拡大防止のための学校休業や学級閉鎖等、さまざまな制限が課されていますが、行事の実施方法を変更しながら、可能な限りの教育活動を実施してきました。

市教育委員会は国や府の通知に基づき感染予防を徹底するよう各学校へ指導を行う一方、その時々合わせた工夫を最大限に行い、子どもの学びを止めず、学習を保障する学校教育活動を実施するよう、学校へ指導助言を行っています。

1 オンライン参観にチャレンジ

1月28日(金)と2月4日(金)に田原小学校においてオンライン参観が実施されました。学校と家庭をオンラインで繋いで授業の様子を家庭で参観してもらう取組みで、コロナ禍でも密を避けながら参観を実現するための新たな試みです。

学習者用タブレットPCは家庭に持ち帰って宿題などの課題を行ったり、学校の授業で活用したりしていますが、参観当日は学習者用タブレットPCを家に置いて登校し、児童が日常使っているウェブ会議システムを使って授業を参観していただきました。教室には授業の様子を撮影するためのPCがセットされ、保護者は学習者用タブレットPCの画面を通して子どもの様子を参観しました。

この試みは、授業参観を実施したいという学校の思いと、子どもの様子を参観したいという保護者の願いを両立する取組みになりました。(裏面に続く)



参観に向けて試し撮りをしていく様子。

オンライン参観に向けて配信テストを行いました。児童への指導はもとより、児童の声が明瞭に入っているか、画面内に児童の姿がうまく映り込むかなどのでチェックも行われました。



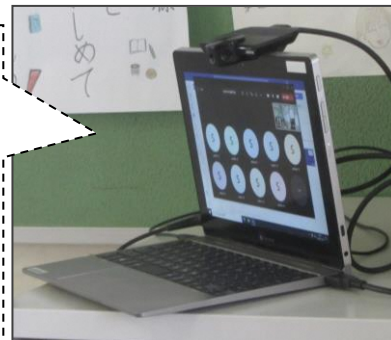
「参観ありがとうございます。SDGs について自分たちで調べたものを発表します。」と保護者に挨拶している様子

今回のオンライン参観が実現できた背景には、GIGAスクール構想が本格実施されて学校と家庭がオンライン通信で繋ぐことができる環境であったこと、さらに教員が授業を配信する手法を習得していたことが大いに関係します。

参観用に教室前にセッ

されたタブレットPC。

参観に参加する保護者の様子も伺えました。



2 対話的な学び、タブレットも活用して

市教委は、感染を予防するため、教室内の換気や人と人の距離を一定確保するように指導しています。

学校では授業支援ソフトを使用し、必要に応じて、友だちと意見交流する際に友だちのノートを開覧したり、協働学習ができる機能を活用してソーシャルディスタンスを取りながら授業を行っています。



飛沫防止ガードで飛沫対策をしながら、学習者用タブレットPCで友だちの考えを開覧する児童

3 予防対策グッズを配布して、感染予防を徹底

学校での感染予防対策はこれまで同様に徹底を続けています。学校での感染予防は換気、人と人の距離の確保、手洗い、消毒、マスク着用、毎日の検温等の健康チェックなどです。市はこれまで、各学校に飛沫防止ガード、消毒液、マスク、非接触型検温計、サーキュレーター、空気清浄機などを配布し、感染予防を徹底するよう引き続き指導を行っています。



サーキュレーター、消毒液、空気清浄機
(各教室に配布)